

緑と商業施設

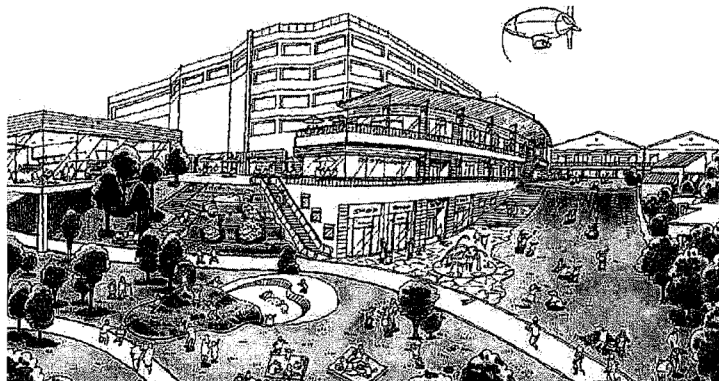
南町田駅、市・東急が600億円事業

境目なく再開発

駅前のショッピングモールと都市公園を一体的に再整備し、樹木の緑と商業施設、高層住宅が境目なく広がる「新たな街」に――。町田市と東急電鉄（渋谷区）が、600億円近くをかける大型再開発事業に共同で乗り出す。ベッドタウンの高齢化が加速するなか、幅広い世代の交流の拠点にしようという試みだ。

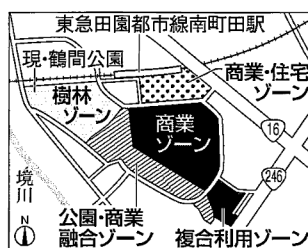


再開発される南町田駅前
グランベリーモール（左）
と緑豊かな鶴間公園（右）
が広がる町田市



都市公園と商業施設を一体的に整
備したイメージ図町田市提供

「二子玉川」上回る規模 2019年度 街開きめざす



事業が行われるのは、東急田園都市線の南町田駅南口周辺。来年2月に一時閉店する東急の商業施設「グランベリーモール」と、隣接する市立鶴間公園などの

一帯を再開発する。駅の南北をつなぐ自由通路を設けるほか、高層マンションも建設する。

公園と商業施設の境目は遊歩道などがある「融合ゾーン」を設け、低層の建物が中心の商業施設は閉店後も周辺を自由に歩けるようにする。市の担当者は「公園と商業施設の境界をなくし、歩いていたらいつのまにか公園というのが理想」と話す。

全体の広さは六本木ヒルズ（港区）の2倍以上に当たる約22ヘクタール。東急が世田谷区で進めた大型再開発事業「二子玉川ライズ」と隣接する区立公園（計約17ヘクタール）を上回る面積だ。総事業費は500億〜600億円と見込まれる。

市と東急は2月末、事業を共同で進める協定を結んだ。石坂丈一市長は「従来の官民連携の姿から一歩も二歩も前に進んだ」と意気込む。

市は年内にも、近くを流れる境川の水害に備えた地下調整池の増設から着手。新たな商業施設や公園、道路を一体的に再整備し、東京五輪・パラリンピック前の2019年度中の街開きをめざす。

朝日新聞

2016年9月6日付